



野焼きによる草原の維持活動

平地農業地域、中間農業地域



キーワード

都道府県独自の取組

組織の広域化・体制強化

あそしそうげんかんきょうほぜんかんりきょうてい

あそし

阿蘇市草原環境保全管理協定（熊本県阿蘇市）

- 阿蘇市草原環境保全管理協定は、平成26年に12の組織が広域組織として一つにまとまり、本交付金の取組を実施している。
- 本組織の特徴として、世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大な阿蘇の草原を維持するために、熊本県独自の取組として野焼きや輪地切りによる保全管理を行っている。
- この活動により、野焼きや輪地切りの担い手不足に歯止めがかかり、阿蘇の草原生態系や景観形成が保全されている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積9,709ha（草地9,709ha）
- ・資源量 水路0km 農道0km
- ・主な構成員 自治会、農事組合法人 等
- ・交付金 約41百万円（R4）

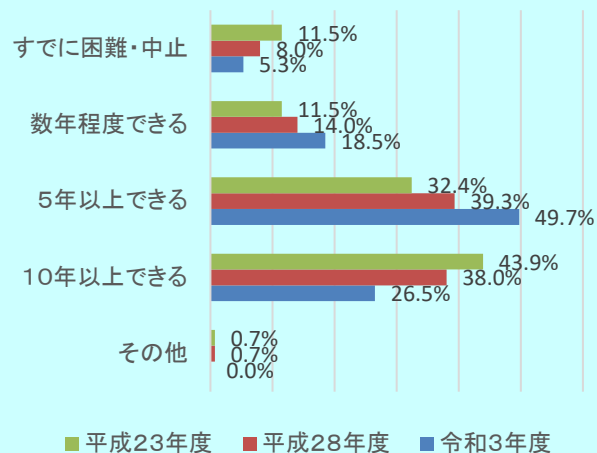
農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 平成23年と28年、令和3年の調査では、今後数年で野焼きや輪地切りの継続ができなくなると半数以上の農業者が回答している。



【資料 R3熊本県阿蘇草原維持再生基礎調査】

取組内容

- 地区内外から野焼き活動者を募り取組を実施。
- 野焼きにより阿蘇の生態系保全、景観形成を保全。



野焼きの様子

取組の効果

- 草原の維持活動への参加が減少傾向だったが野焼き・輪地切り支援ボランティアの参加者を募ることで、年間延べ1,000名程度の参加があり、全体で年間延べ5,000名を超える参加者で草原の維持管理ができ、生態系保全や景観形成が保全されている。



輪地切り活動の様子



若者女性などの多様な参画について

平地農業地域



キーワード

若者女性などの
多様な参画

組織の広域化
・体制強化

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積155ha
(田133ha、畑22ha)
- ・資源量 水路43.7km
農道15.5km
- ・主な構成員 自治会、子供会、
土地改良区
- ・交付金 約 14百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

みすみまちいきしげんほぜんたいこういききょうてい うきし 三角町地域資源保全隊広域協定(熊本県宇城市)

- 地域の高齢化や人手不足の課題をかかえていた2つの集落が令和元年に広域組織となり、本交付金の取組を実施している。
- 本組織の特徴は、自主施工隊として「がまだし隊」を立ち上げ、広域内の人手が足りなく、困っている地域のお助け隊となり、「遊休農地の草刈り」や「水路の泥上げ」等の活動に取り組んでいる。
- 小学校の閉校をきっかけに、子供たちの遊ぶ声が少なくなったが、本交付金の取組で美化活動を行い地域を知ることによって、地域交流が増え、子供たちの元気な声が戻ってきた。
- 地域の人口は減少しているが、取組の活動により地域の交流が増え、活動の参加人数は変わらず持続し続けている。

活動開始前の状況や課題

- 本組織は、平成18年モデル地区として活動を始めた。
- 広域組織として活動を行うにあたり、地元の理解や合意形成の面から時間を要したが説明を重ね無事開始することが出来た。
- 活動当初、若者女性の活動への参加はあまり見受けられなかった。



総会の様子

取組内容



- 世代間の交流や繋がりを目的とした「どんどや」(地域内の竹など燃やし無病息災を願う行事)は地域の子供たちや保護者を中心に活動を行っている。
- 地域の見回りやゴミ拾い等の活動に「子ども会」が参加しており、保護者も一緒に積極的な活動を行っている。



どんどや



生態系保全活動

取組の効果

- 子供たちの声とともに、地区内の活気が戻り、非農家や他の地域住民も活動への参加が約4割程度増えた。また、子供たちと一緒に活動する保護者などの女性参加割合が約3割程となっている。
- 地域内には女性が主体となっている団体はないものの地域のイベントの際は、非農家を含む地域の方々が参画しやすい環境である。



地域住民との交流活動「ゴミ拾い」



広域活動組織による「直営班」の設立

平地農業地域



キーワード

持続可能な
保全管理

組織の広域化
・体制強化

にしきまちのうちみずかんきょうほぜんかんりきょうていうんえいいいんかい
錦町農地・水・環境保全管理協定運営委員会

にしきまち
(熊本県錦町)

- 本地域は、熊本県の南部に位置する錦町において、1町1組織で活動に取り組んでいる広域組織。錦町の中心部を球磨川が西流しており、この地域一帯が集中した水田地帯となっている。
- 農地・水・環境保全向上対策(以下、農地水)が開始された平成19年度に設立。町内全域を活動エリアとしており、認定農用地面積は約985ha。傘下の組織数は27組織で構成。
- 人手不足等により活動が困難な地域での活動を支援するため、「直営班」を設立。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 985ha (田:985ha)
- ・資源量 水路203km、農道85km
- ・主な構成員 農業者、農事組合法人、自治会、女性部、土地改良区、学校、消防団、子供会 など
- ・交付金 約90.6百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

取組前の課題

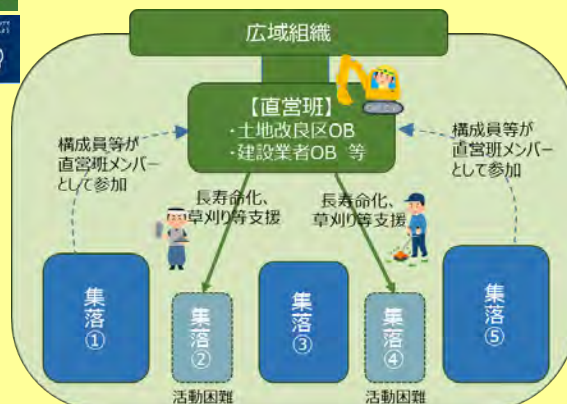
- 過疎化、高齢化により、保全活動への参加者が減少。農道や水路などの農業用施設の保全管理活動の実施が困難となる地域が発生。
- また、重機の免許資格を持つ構成員がいる地区は一部。台風や洪水等の異常気象により発生した流木や、用水路の土砂に撤去のほか、鹿や猪の被害により崩壊した法面等の補修など、いずれも重機を使う作業であり、免許保有者による応援が必要。



川の氾濫により管理用道路に流木が散乱
(重機がなければ対応困難)

取組内容

- 活動が難しい地区を支援するため、事務局直属の「直営班」を設立。直営班は建設、土木関係のOBが7名と技術者が1名で構成。
- 業務内容は長寿命化工事が主体であるが、草刈りの人手が足りない地区の手伝いや、人数の集まりにくい水路の泥上げ作業、重機が必要な作業など、協定内で困っている地区を助け、支援する活動にも取り組む。



取組の効果

- 直営班が応援に行くことで、全域を通して円滑な活動が可能となった。
- 直営班は、仕事が丁寧かつ技術力もある。また、各地区の構成員で組織しており、施工地区とも円滑なコミュニケーションが取れるため、両者納得した施工が可能で施工後のトラブルが少ない。
- 直営班は外注に比べ省コストで施工が行うことが可能であり、活動が充実。



ユンボの達人・左官の達人・大工の達人など
腕のいいメンバーです！

直営班の活動

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積6.7ha
(田6.7ha)
- ・資源量 水路2.3km
農道1.1km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
- ・交付金 約0.36百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は農業の担い手不足による耕作放棄地の増加や農地農業用施設等の維持管理が困難な状況となり、施設の老朽化も顕著になってきた。
- 農村コミュニティが希薄化、耕作放棄地の増加等による里山景観の消失も大きな課題になっている。



活動範囲

取組内容



- 施設の点検を行い、損傷状況把握、看板を挿入して記録写真を撮り位置情報を地図にまとめ、点検表を作成し見える化を図っている。



- 点検結果を基に、点検表を本作成する。損傷状況のランク付けや実施時期の検討、組織での補修困難箇所は、他事業での対応を模索している。



取組の効果

- 施設の補修等が促進されるとともに管理施設の要整備箇所が一目で分かるようになり、効率的な整備が可能となった。

箇所番号	2
施設種類	農道
損傷種	クラック(割れ)
状況	長さ1.5m 幅1.8m
診断結果	B拡大傾向
計画年度	令和3年度
実施年度	令和3年補修済

農業用施設等点検・機能診断・実施状況 一覧表				
相原地域資源保全会管理施設	農道			
施設名	農道			
点検項目	クラック			
箇所番号	状況	診断結果	実施計画	実施
1	L=2.85 W=0.1	B	R2	R2日出電機
2	L=1.5 W=1.8	B 拡大	R3	R3補修済
2'	L=2.0 4.6 W=0.65	B	R3	未
3	L=3.3 2.4 W=0.6~0.7 2~4cm			
4	L=3.9 W=0.6~0.9			

- 診断ランク
- A 補修・新設が必要
 - B 計画的に補修が必要
 - C 経過観察後必要に応じて補修等実施
 - D 地元対応不可 他事業等検討

診断様式



農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

平地農業地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

かたはらつくのうそんかんきょうほぜんかい ひじまち
片原津区農村環境保全会議 (大分県日出町)

- 農地・水・環境保全向上対策事業に平成20年より取組を開始、以来15年にわたって地域ぐるみで農地や水を守る効果の高い共同活動と地域の環境保全活動に取り組んでいる。
- 発足当時から集落全員を構成員として、農業者、老人会、子供会や地域住民との交流活動、老若男女問わず地域ぐるみの農作業や景観形成活動を実施したことで農家と非農家の新たな交流が生まれ、地域コミュニティの希薄化に歯止めがかかった。
- また、活動開始以前は水路やため池等の施設点検は農業者個人で行われていたが、活動開始後は複数人共同による見回りへと変化、情報共有と安全性向上が図られた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積22.3ha (田22.1ha、畑0.2ha)
- ・資源量 水路8.5km 農道6.5km
- ・主な構成員 農業者、非農業者 子供会
- ・交付金 約0.99百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域では、高齢化や混住化の進行によって農村環境を支えてきた「地域の共同活動」の力が失われることが心配されていた。
- また、農業者は遊休農地の増加に気づいてはいたものの、個人中心の営農形態であったため、有効な手を打てずにいた。



遊休農地

取組内容

- 農地の保安全管理、遊休農地解消に共同で取組。遊休農地の一部には植栽を行い景観維持を図った。



遊休農地の解消



植栽



- 地域全体で農業体験(田植、稲刈)、収穫されたモチ米で子供たちが老人会の指導のもと餅つきを行い、独居老人に配布。



餅つき体験



配布状況

取組の効果

- 地域ぐるみでの景観形成活動や農作業を実施したことで、農家と非農家あるいは自治会や子供会、老人会といった組織間、世代間の新たな交流が生まれ、地域コミュニティのつながりが活性化。

- 令和5年度の田植体験では2aの休耕地を活用。子供16人が参加、うち11人の親は地区出身の地区外在住者。地元への帰属意識の醸成が図られた。



景観形成



田植体験



地域防災(田んぼダム)の取組について

中間農業地域



キーワード

地域防災(田んぼダム)の取組

組織の広域化・体制強化

きつきしためんてきこういききょうてい
杵築市多面的広域協定 (大分県杵築市)

- 本組織は、平成29年度より14組織がまとまり広域組織として活動を開始した。
- また、実証試験で田んぼダムの取組を行っており、流域治水の重要性を実感している。
- これにより、気候変動による降雨量の増大、土砂災害などの防災に対する意識がより一層高まっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積354.8ha
(田279.2ha、畑75.6ha)
- ・資源量 水路72.2km
農道68.5km
ため池34箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会
こども会 等
- ・交付金 約26.3百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、少子高齢化により活動への参加や活動範囲も減少している。事務の担い手が見つからず苦労していた。



総会

取組内容



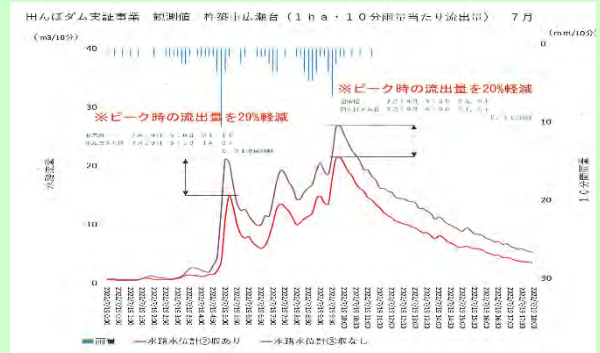
- 令和4年度に県の実証圃として18haで田んぼダムに取組んだ。効果が確認出来た事や営農への支障がないことから令和5年度より29haの取組を開始した。
- 主な作業として、堰板管理や現地の見回りを実施。



田んぼダム取組位置図

取組の効果

- 田んぼダム設置ほ場では、通常堰設置ほ場に比べて、ピーク時には153ton/haの雨水を多く貯留する効果が確認された。
- また、排水路への流出量については、田んぼダムの実施により、ピーク時の流出量を約29%軽減する効果が確認された。
※地域の地形や雨量により効果は異なります



流出量比較図



山腹用水路と棚田を災害から守る取組

山間農業地域



キーワード

・自然災害の防災
・減災・復旧

・組織の広域化
・体制強化

みどりねっとたかちほごうこういききょうてい

たかちほちよう

水土里ネット高千穂郷広域協定（宮崎県高千穂町）

- 単独で活動していた3地区5組織が広域協定の参加に同意し、平成29年度より広域協定組織として取組を実施。
- 本地域には、世界農業遺産でその価値を認められた総延長80kmに及ぶ山腹用水路や、つなぐ棚田遺産に認定された「川登棚田群」を含む170haを超える水田があり、泥上げ作業や国県事業に該当しない小規模な用水路の補修・更新、異常気象時の点検・応急措置等により、防災・減災・復旧に取り組んでいる。
- この活動により、劣化・破損箇所の補修・更新が図られるとともに、台風や豪雨等による災害発生時にも迅速な対応が可能となった。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積173ha
(田171ha、畑2ha)
- ・資源量 水路80km
- ・主な構成員 農業者、自治会、土地改良区 等
- ・交付金 約8百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、兼業農家が多く、高齢化も進んでおり、土地改良区の役員等に作業等の負担がかかっていた。
- また、費用面においても、土地改良区の予算だけでは十分な補修・更新等が実施できなかった。
- 以上のような状況から、近年、強化・巨大化する台風や集中豪雨等により被災した用水路・農地の応急措置や復旧にも、時間を要することが多かった。



異常気象後の応急処置
(R4 台風14号)

取組内容



- 年間を通して、状況に応じた泥上げ作業の実施。
- 機能診断により劣化状況等を確認し、予防保全活動や補修・更新を実施。
- 異常気象後の見回りや応急措置の迅速な実施。
- 広域化し、少人数では手が回らなかった施設の見回りや復旧作業の実施。予算の流用による維持管理。



異常気象後の応急措置(R4 台風14号)

取組の効果と今後の活動

- これまで実施できなかった用水路の補修や更新を効果的に行うことができ、防災・減災力の向上が図られた。
- 豪雨や台風通過後の見回りを構成員でこまめに行うことにより、災害発生箇所を初期段階で発見でき、迅速な応急措置により早期復旧に繋げることができた。
- 最近では、線状降水帯の発生などにより、予報を大幅に超える雨量を観測することが増えており、より防災・減災力を高めるため事前の流量調整をどのように行うか協議する機運が高まっている。



⇒



異常気象後の応急措置による復旧(R4 台風14号)



生き物調査を通じた地域保全の取組

都市的農業地域



キーワード

生態系保全、環境保全
型農業に関する取組

たのうえかんきょほぜんかい みやざきし
田ノ上環境保全会（宮崎県宮崎市）

- 本地域は、宮崎市佐土原町北部に位置し、二級河川一ツ瀬川の支流である天神川を水系とする水田及び畑地帯である。
- 子供達や親の世代が、地域の自然とふれあい、学べる機会をつくることで、地域と協力した農村環境保全活動を行っている。
- 本交付金の取組による構成員と地域住民のつながりにより、一体感を持って農地の維持管理を行っている。また、交付金を活用して水路補修等を実施し、施設の長寿命化を図っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積34ha
（田25ha、畑9ha）
- ・資源量 水路8.3km
農道4.5km
- ・主な構成員 自治会、水利組合、農業実行組合、老人会、子供会
- ・交付金 約150千円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 子供達がフィールドワークを通して、地域の自然環境を学ぶ機会が少なくなっていた。
- クサガメなど外来種の増加等の問題が生じているが、環境保全活動が行われていなかった。
- 過去に確認されていたキジやウズラなどの野鳥が、近年確認されなくなった。
- 農家の高齢化に伴い、耕作放棄地や休耕地が増加する中で、組織の構成員だけでは維持管理が難しくなっていた。

取組内容

- 市町村、民間団体、学校等が開催する環境に関する講演会、研修会、講習会等に県内在住の環境問題の専門家を講師として無料で派遣する宮崎県環境保全アドバイザー制度を活用し、派遣講師のもと野鳥、田んぼ周辺の生き物等（水生生物、昆虫、植物）の観察を行っている。（子供会）
- 耕作放棄地や休耕地にコスモスの播種を行い景観形成に努めている。（老人会、子供会）



水生生物の観察

取組の効果

- 子供達が自然とふれあい、学べる場として継続的に活動し、生き物等の生息分布をを調べることで、地域の自然や生態系への理解を深めることが出来ている。
- 老人会や子供会も取組に参加し、非農家からも農業・農村がもつ多面的機能について理解・協力が得られている。



野鳥についての学習



野鳥の観察



昆虫採取、観察



農家と非農家が一体となって地域コミュニティの活性化

山間農業地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

組織の広域化・体制強化

うちのうら みどりこういききょうてい

きもつきぐん きもつきちょう

内之浦水土里広域協定（鹿児島県肝属郡肝付町）

- 鹿児島県の大隅半島中央の肝付町の東部に位置し、900m級の山々が連なる国見山系がひかえ、これらに端を発する川や滝が農地のすみずみまでを潤している。
- 太平洋に面した平野部の水田地帯であり、古くより水稻を中心とした営農が盛んな農業地帯である。
- 本交付金の活動を通じて、地域住民と学校が一体となり、地域の活性化が図られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 171.6ha
(田 160.0ha 畑 11.6ha)
- ・資源量 水路 63.6km、農道 14.9km
- ・主な構成員 農業者、自治会、PTA
- ・交付金 約15.35百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 点在する遊休農地から隣接農地への雑草拡散等により、営農者の生産意欲が低下し、遊休農地の増加が深刻化。
- 農業者の高齢化・後継者不足などから農家の戸数が減少し、農道や用排水路の適切な維持管理が困難となり遊休農地の発生が見られていた。

取組内容

- 耕作放棄地の解消
- 農業用施設の補修
- 地域ぐるみによる清掃活動
- 学校教育との連携(もち米の苗植・稲刈・餅つき体験)
- 「銀河マラソン大会」の開催に合わせて開花するように遊休農地解消後の農地にコスモス・ヒマワリを植栽した景観形成の取組
- 「上北豊年祭り」の伝承活動を通じた地域の活性化
- 活動PR用看板の製作
- 広報誌の全世帯配布(年一回)
- 学校教育との連携による農業体験等のポスター・カレンダー作成



活動開始直後



農道・水路の草刈り



11月末頃のヒマワリ

取組の効果

- 活動組織の体制の中心となる役員を非農家(役場、農協、漁協、JAXA等)の地元に住んでいるOB)を中心として構成し、農業者と一体となった運営を行うことで、高齢化している農家に対して負担を大きく軽減できている。
- 2013年から学校教育と連携して農業体験やヒマワリ植栽等の景観づくりに取り組んでおり、地域農業・農村に対する理解と組織活動のPRが図られている。



マラソン大会に合わせて開花したコスモス



田植え体験学習



餅つき体験



中山間地域における多様な事業を導入した保全活動

中間農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

ひとつきしゅうらくきょうてい

一ツ木集落協定（鹿児島県さつま町）

- 本地域は、鹿児島県北西部に位置し、標高1,067mの紫尾山のすそ野に広がる地域である。
- 農業者の高齢化、地域住民の減少により、地域営農や保全活動の存続が危ぶまれる中、中山間地域等直接支払制度と共に本交付金制度に取り組み、組織と地域が一体となり耕作放棄が広がらないように保全作業を実施している。
- 農事組合法人「ひとつき」を設立し、農地の集積や農作業の受託を担っているほか、生産した農産物の加工販売までを行う6次産業化の取組も行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 37.2ha
(田 34.1ha、畑 3.1ha)
- ・資源量 開水路 7.0km、農道 10.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、農事組合法人など
- ・交付金 約3.08百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 当地域は、主に水稻や飼料作物を栽培している中間農業地帯である。
- 平成16年に完工したほ場整備を機に、各種交付金事業に取り組み、農事組合法人の前身である集落営農組織を設立した。
- 農業者や担い手の減少により、今後の営農や保全作業に係る参加者の確保等に苦慮している。
- 鳥獣被害が増えてきており、今後、電気柵やワイヤーメッシュ柵等の対策が必要となる。



認定農用地

取組内容

- 平成26年度当初から、さらなる農村環境維持対策のため、草刈り等の保全作業や施設補修、外来種の駆除、鳥獣害対策、農村コミュニティの強化活動に取り組んでいる。
- 非農業者の方や女性にも興味・関心を持ってもらえるよう、総会等で話し合いを重ね、共同活動を行っている。



総会の様子



保全作業の様子

取組の効果

- 地域保全活動のための共同活動が浸透し、地域住民との協力体制が整った。
- 農地の利用集積が進み、約40%を農事組合法人に集積できた。
- 上記により、地域内の耕作放棄地の進行に歯止めをかけることができています。
- 「田の神講」や「収穫感謝祭」など、農村コミュニティの強化活動により、地域住民のつながりがより一層強まった。
- 農産物加工や消費者との交流が図られ、女性の参画が推進できた。(構成員の女性割合約20%)



「田の神講」の様子



消費者との交流



ぬくみちいきかんきょうほぜんたい

生見地域環境保全隊

かごしまし

(鹿児島県鹿児島市)

- 本地域は、薩摩半島の南東部に位置した温暖な地域であり、水稻を基幹作物としているが、農業者の高齢化及び担い手不足による遊休農地の増加が懸念されていた。
- 遊休農地の解消・発生防止のため、発生状況の把握や草刈りを実施。また、小学校等と連携し、遊休農地に景観植物を植栽することにより、景観形成を図った。
- 小学校と連携し、地域に古くから伝わる農村振興に係る伝統芸能の継承を図った。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積：55.9ha
(田44.6ha、畑11.3ha)
- ・資源量：水路25.0km 農道19.9km
パイプライン 1.0km
- ・主な構成員：自治会、農業者、
子供会
- ・交付金：約2.49百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化及び人口減少による農業の担い手不足に伴い、遊休農地になりうる農用地の増加が懸念されるとともに、農道や水路等の施設の保安全管理が困難になっていた。
- 農村の環境保全活動に対する地域の理解不足があり、活動参加人数が少なかった。



農業者による農用地見回り（状況把握）

取組内容

- 遊休農地の解消・発生防止のため、共同で草刈りを実施した。また、小学校等と連携して、遊休農地にヒマワリやコスモスを植栽した。
- 高齢化で途絶えかけていた「おた踊り※1」の保存のため、児童を踊り手として、運動会のプログラムに取り入れてもらった。また、子供会と連携して、「かつさど※2」を実施した。
- 施設の日常管理に加え、異常気象時の点検を実施した。



運動会での
おた踊り披露



子供会での
かつさどの実施

取組の効果

- 景観活動や施設の維持管理により、遊休農地発生抑制に寄与するとともに、地域資源の保安全管理に対する意識の向上が図られた。
- 線路沿いの遊休農地を活用し、美しい田園風景と一面に広がるコスモス畑を創出することで、地域のイメージアップに貢献した。
- 農村文化に関する伝統行事である「おた踊り」に地域住民に加え、小学生12名と卒業生である中学生10名が参加し、伝統文化の継承に対する子供達の意識が高まるとともに、地域コミュニティの強化が図られた。



線路沿いのコスモス畑



コスモス畑を楽しむ住民

※1 おた踊り … 150年以上続く伝統行事で、武士の棒術を応用した踊りが農民に広まったと言われている。

※2 かつさど … 五穀豊穡や無病息災を祈念して、毎年子ども達が「亥の日」に合せて集落内を回り、餅を集めて神木に供える風習。



生態系保全のための外来植物の駆除

平地農業地域



キーワード

特定テーマ
(外来種駆除)

もちどめ おかべつぷちいきほぜんきょうぎかい おおさきちょう
持留・岡別府地域保全協議会（鹿児島県大崎町）

- 本地域は、鹿児島県の東部に位置し、町南部には広大な畑地帯が広がり国営畑かんによる灌がいと温暖な気候に恵まれ野菜を中心とした畑作営農が展開されている。
- 本地域は、持留川流域の中山間地に位置する水田地帯であり、近年ほ場整備が完了したため耕作条件は、改善されているものの高齢化による離農や営農意欲の減退が顕著になり、担い手への集積・集約化が課題となっている。
- 本組織は、本交付金を活用し、農道や排水路の草刈りを実施している。加えて地域内にある湧水池の生態系保全に取組み、外来種である植物の駆除を定期的に行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積30.4ha（田30.4ha）
- ・資源量
開水路10.8km、農道11.7km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
PTA
- ・交付金 約1.46百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 中山間の狭小な水田であったが、近年ほ場整備が完了したことにより耕作条件の改善が図られた。
- 地域内農家の高齢化や離農により営農意欲の減退が見られるなか、担い手への農地集積に向けた取組みが求められている。
- 基本的な保全活動に加えて地域内の湧水池の生態系保全の取組みが始まっており、在来種であるホタルや魚の生態系に影響を及ぼす外来植物の駆除が課題となっている。



ほ場整備により
耕作条件が改善
された水田



外来種である
ボタンウキクサ

取組内容

- 農道や排水路の草刈りを実施。
- 湧水池において、在来種のホタルや魚の生態系に影響を及ぼしている外来植物ボタンウキクサの定期的な駆除を実施。
- 自然環境研究センターが現地で農業水利施設における外来種対策推進手法検討調査を実施。当活動組織が立会い、今後の対策を検討。
- 農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積に向けた話し合い活動を開始。



共同活動における外来
植物の駆除作業



自然環境研究センター
による現地調査

取組の効果

- 2008年頃に実施したほ場整備工事に伴う貴重な動植物の引っ越し作業を、地域住民、建設業者のボランティアが行ったことを契機に、作業に参加するようになり、地域内の生態系保全に取組む意識が向上した。（毎年30名程度が参加している）
- 外来種駆除によりホタルや魚の生息数が徐々に増えてきている。
- 話し合い活動を基に推進した農地中間管理機構への貸出は、16haとなった。



担い手への農地集積に
向けた話し合い活動



小学生によるホタルの
幼虫放流活動